

昨年は青信号

平成19年5月2日に四条烏丸の信号機の青信号にニホンミツバチの分封群が飛来し、大騒ぎになりました。このときの経過は、「衛生動物だより第24号」で皆さんにお知らせしました。多くのテレビ局が報道し、青信号に集まった理由が取りざたされました。

今度は赤信号

平成20年7月15日のことです。「西大路四条(西院)の信号機にミツバチの分封群が集まっている。警察から駆除の依頼があった。これから現場に向かうが、衛生公害研究所も見に来ないか。」と右京保健所からの連絡です。早速、現場に駆けつけました。現場では、分封群が集まっている信号機の下に赤色灯を回転させたパトロールカーが、また、パトロールカーの後ろに信号機の補修をするための専門車両も待機しています。右京保健所の担当者とも合流しました。しばらくすると委託先のハチ駆除の担当者が到着しました。直ちに駆除が始まりました。駆除作業は、20分ほどで終了しました。種類は、ニホンミツバチでした。

二つに分かれた分封群

分封群は、1匹の女王を中心として、一箇所に集まるのが普通です。ところが、今回は、赤色の信号とその信号機の支柱の部分にも集まっていました。おそらく、もともと、赤信号にあった分封群が、重さに耐え切れず、落下したため、落ちた分封群が信号機の支柱に再度集まったものと思われます。

このことを確認することにしました。委託先から譲り受けた分封群の中から女王バチを探しました。もし、二つの分封が同時に起こったとしたら、2匹の女王バチがいるはずですが、注意深く探すと、体がひときわ大きく、腹節基部に黄色の帯がない個体が1匹だけ見つかりました。おそらく女王バチでしょう。このことから、二つの分封群は、同じ仲間の分封群と思われました。

追伸

「衛生動物だより第64号」で野外のクスノキの枝にニホンミツバチが巣を作っていることを紹介しました。ところが、最初に連絡をいただいた市民から「6月30日に営巣しているのを確認していたのだが、7月2日にはいなくなった。」との連絡がありました。そういえば、6月の下旬にたくさんの雨が降りました。おそらく、野外の巣では、この梅雨の大雨に耐え切れなかったのでしょう。巣ごと移動したものと思われます。ニホンミツバチの飼育は、比較的難しいといわれます。その理由の一つが、巣を放棄して、引っ越すことがあることです。今回のミツバチ分封騒ぎの原因も個体数が非常に多いことから、また、分封としては季節外れであることから、巣ごとの引越しだったのかもしれませんが。

昨年のデータから

昨年、一昨年とハチ駆除作業の委託先から駆除した標本を譲り受けて、ハチについて調べました。分封群も幾つか譲り受けました。そして、分封群の全体の重さを100匹分の重さで割り、分封群の匹数を推定しました。ゴールデンウィークの前後に譲り受けた分封群は、11個でした。それらの推定平均は、約5000匹でした。ところが分封のシーズンが過ぎた平成19年6月27日に譲り受けた分封群は、約18000匹と、今回と同じような多くの分封群でした。今回の西大路四条の事例も、巣ごとの引越だったかもしれません。

